

## 現行基準

- 住宅性能表示制度における省エネルギー対策等級について、断熱等性能等級は等級4、一次エネルギー消費量等級は等級5が最高等級。
- 評価に当たっては、断熱等性能等級と一次エネルギー消費量等級のいずれか一方を選択することができる。

## 見直しの背景・考え方

- 2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現に向けて、住宅の省エネルギー性能を一層向上させる必要。
- 有識者による検討会とりまとめでは、ZEH水準以上の多段階の等級を設置する旨が位置づけられている。
- このため、
  - 見直し後の長期優良住宅の認定基準となるZEH水準の等級は、既に普及している基準があることから、本検討会で審議した上で、当該基準を速やかに位置づける
  - ZEH水準を上回る等級は、今後、基準のあり方等について検討を行った上で位置づける（別の検討会の場で検討予定）  
こととする。

## 改正案

- ZEH水準の等級として、断熱等性能等級5、一次エネルギー消費量等級6を、新たに設定する。
- また、断熱等性能等級及び一次エネルギー消費量等級両方を評価取得必須項目とする。

<断熱等性能等級>

等級	要求値※1
等級5(新設)	$U_A$ 値※2 ≤ 0.60
等級4	$U_A$ 値 ≤ 0.87
等級3	$U_A$ 値 ≤ 1.54
等級2	$U_A$ 値 ≤ 1.67
等級1	—

<一次エネルギー消費量等級>

等級	要求値
等級6(新設)	$BEI$ ※3 ≤ 0.8※4 (省エネ基準▲20%)
等級5	$BEI$ ≤ 0.9 (省エネ基準▲10%)
等級4	$BEI$ ≤ 1.0 (省エネ基準)
等級1	—

※1 6地域(東京等)の場合

※2 外皮平均熱貫流率(住戸内外の温度差1度当たりの総熱損失量(換気による熱損失量を除く。)を外皮の面積で除した数値)

※3 基準一次エネルギー消費量に対する設計一次エネルギー消費量の割合(その他一次エネルギー消費量を除く)

※4 太陽光発電設備によるエネルギー消費量の削減は見込まない